

# 五つの健康

体の健康・心の健康・生活の健康  
運命の健康・思想の健康

この五つの健康が幸せの基本となる

# 良縁・悪縁

世の中には幸せも不幸もうずまいてゐる不幸  
災難と縁のない人間になるためにはどうすればよ  
いか日々の生と方考え方心のもら方、これが種と  
なつていく、そして幸とも不幸、災難とも縁を  
つなぐのである。よい縁につながるよりなよい種をつ  
ればいつでも安心である。

# 好運の人

天のめぐみ天の親切を沢山よび込んでゆく人が  
ある、これが好運の人である、かたに空気が全身を  
包んでいても吐き出す程、人には入ってこない、かたに天地  
のめぐみに抱かれていても空には入らない、人には受け入れ  
る資格はない、めぐみ少なき不幸不運は空に成る道を  
知らぬ人の姿である。

# 嵐をこえる道

竹節ありて強し節があそあの竹の強さが生まれてゐる人間も逆境をこえてこえて心も練られる嵐それは自分の鍛練の時を天がお与え下さつたのであるこれを尊ぶことが嵐をこえる道である

# 心に光を

人の心に光が輝くためには良いことに向かつて  
心魂をつくり切ることである。そしてそのための  
苦難で来たえられる練り上げられるそのつみ重ね  
が人徳の光となり明るい性格となつて輝く

人間の向題で悩む方々の相談のご返事  
にいつも答えは只一つ

「何も口で言う必要はないよ只反省とおわび  
で見守る事だ。そしてどんな時も機嫌よく  
してらっしゃいと」

明るさ、暗さ、紙かみ一ひと重え

# 徳の重み

すべて自分の回りのこと（家庭 会社 子供  
仕事）は皆自分の心の徳の重みでおさまる  
徳の重みというのは決して人を軽くみないこと  
ふれあう人すべてに對し（夫に對し妻に對し親に對し  
子供に對し友人に對し）有難く尊く考ふるその心  
が徳の重みになるんだよ



## 心の隙

金がほしい地位が上がりたい人からよく思  
われたいこんなことを思つて働いてゐる人は  
心に隙がある心がうわつてゐる目のつけ所が外向き  
過ぎてゐるそんな人に限つて地位が上がればいばる  
少し金はいつたら生き方が乱れる一度逆境に  
おちた時はあわてゐることになる

世の中にはたとえ損をしてもやらねば  
ならぬことがあります 又いくら利益が  
あがってもやつてはならぬ仕事もあります

# 心の張り

糸がゆるむ 琴も三味線も快適な音  
は出ない 人間も心がゆるむ すべてに調子  
の悪さが生まれる 面白ほど調子よくなりた  
願うなら心をいら立たせない と 明るく豊かに心  
張りをもちたいことである

万難を排して突き進む人は内容が  
よくある。これが正しい生き方である  
ただ金儲けだけがうまいというのは  
砂の上に家を建てるのに似ている  
あぶない

親子の御縁 夫婦の御縁 親戚 兄弟  
との御縁 友人との御縁 これがこの世の中心  
であり 真理であり 神様なんだよ  
ご縁は大切にしなければいけないよ

# 失敗は恩師

失敗は恩師である。自分の足らぬ点を教えて頂いた恩師である。それを尊びながら、それにつまづかないこと。それとつり合おぬほどに自分の本質をみかくことが大切である。

# 生きる道

知恵も力も汗も心もすべてをだし切る  
常に今日一日を生涯の縮図と考えて思い  
きり絞り切つてゆくその生きる道が与えられる

## 松茸と落葉

松茸は緑の葉からは生まれぬ、落葉から生れる。  
落葉が腐るほど、腐つた中から生まれる。人も又  
身が腐るほどの逆境でよい人格の香りをつけ、  
こそ尊い。逆境は時には恩師と成り、尊いものを教  
えてくれることがある。不幸、病、逆境は大成する  
人格を育てる落葉である。



(走っている車の中から)

ほら景色が動いているように見えるだらう  
ちがうんだよ車が動いているんだから  
相手が悪いように思うだらう  
ちがうんだよ自分の不徳の姿が相手に映つて  
はねかえつてきているんだから

人にもものを教える時には暖かくやさしく  
教えるちやうど心に光をつけるようにね  
今の人は光をつけずに道をとくからいかん  
それはちやうど電氣をつけずに地図を  
教えているようなものだよ

# 人を生かす

どんな人でも完全ではない。その人の欠点  
だけ拾えば誰でも悪人になる。悪人でも長所  
だけを見つめたら善人ともいえる。困った石、邪  
魔な木でも配置をかえたら見事な庭の助け  
となる。工夫、寛容が人を生かす。

因縁いんねんというのはね、自分のまた種たねを自分で刈り取るのを  
因縁いんねんというんだよ。身に覚えのない不幸、災難、  
逆境は皆

前生ぜんせいのつけを今世こんせいでかえす

前生ぜんせいの借りを今世こんせいでかえす

前生ぜんせいの借金を今世こんせいでかえす、そういうことなんだよ

# 判断の正否

心がピンとはりきつてゐる時、明るく、勇んで  
ゐる時は常に正しい判断がわく、暗い心  
なまけた心、いら立つ心、利己心に迷つた心の上に  
わく判断は多くの狂いをもつてゐる。

人間の目は前についているだろ、後ろには  
ついていない。たかだか見えそへ八〇度  
だから人間は過去（後）のことは見なくても  
いいんだよ。未来を見つめて生きていけばいい  
後ろは人が見てくれるよ。

おまかせして

明日は山に行こうか海に行こうか それは自分で考える分野である とこゝろが明日は雨がふるか晴れるかこれはいくら考えても明日にはわからねばわからないとら考えてもわからぬことは 気に行かないことであるすかりおまかせしてどちらにしろとも結構だと 度胸定めて心静かによく眠ることが大切である

人に言つても聞いてもらえない

目下の人に言つても相手が機嫌が悪い  
それは皆自分が人の言うことを聞かぬかた  
自分が目上の人から言われた時機嫌が悪かた  
そのゆり戻し通り返すのあらわれだよ



## 魂の光

目は光らせざるよりもなるべく閉じた方が  
いい。そのかわり魂の光を強めることである。  
魂の光を強めるといふことは自分に因われ  
ない修業にそしむこと。回りの人々から信頼され  
尊敬される生ゝ方を心掛けることである。

八方塞が<sup>さい</sup>つては<sup>ど</sup>めて天に通ず  
人間の知恵や才覚で何とかなる間は  
人間は守られていることはわからないよ

自分の心臓でさえ自分の力で動かすこと  
も止めることもできない

人間は天地のめぐみによって守られ生かされている

# 人生の疲れ

機嫌のよい心には弾力がある おい隣村まで行って  
くれぬのかといわれてもすぐ走り出せる機嫌の悪い  
時は何れもかもおっくうになるすべての人間はいつ  
でも機嫌のよさを失ってはほろらない、これを笑えば  
人生の旅はすぐ疲れる、それが不幸や不  
運の原因となる

伝えたい 教えたい その心は尊が  
「こうだ」と言ひ過ぎるのはよくない  
「こうと思うがね」と中心をくずさない 離して  
ながめる 空がらの心を学びたい

病気でなおす

病気をなおす道をきわめるのは医学である  
あるしかし病気で自分をなおすこと  
反省すること 人間としての正しさを  
見つめること これは本人の責任である

# 待ち望まれる人

自分で自分の仕事をつまらな<sup>い</sup>と思<sup>つ</sup>たり力  
がは<sup>ら</sup>ぬ<sup>よ</sup>うな生<sup>き</sup>方は尊<sup>い</sup>人の考<sup>え</sup>方では  
あ<sup>ら</sup>どん<sup>な</sup>つま<sup>ら</sup>ない仕事にも全<sup>心</sup>全<sup>力</sup>をこ<sup>め</sup>て  
働<sup>く</sup>自分をつ<sup>く</sup>ることである  
そんな人こそ八<sup>方</sup>から待<sup>ち</sup>望<sup>ま</sup>れる人である

この教えはね 会員をつくれ 組織をつく  
れという教えではなま 人間をつくれとい  
う教えだよ  
天から人を授かしてその人の心が育つことだけ  
それだけを考えていればいい